

人的災害

ふるさとの災害 ~記録が語る震災・水害・戦争~

人的災害において最大規模の災害は戦争です。国内最後の大規模内戦であった戊辰戦争・西南戦争を経て近代国家としての一步を踏み出した日本は、その後、4度の大規模対外戦争に向かっていきます。日清・日露戦争、第一次世界大戦、日中戦争からはじまるアジア太平洋戦争には、大仙地域からも多くの人たちが出兵し、銃後の協力を強いられました。戦争の経験から私たちは何を読み取るのか、ふるさとの戦争の記憶を次世代に残していくために記録を掘り起こします。

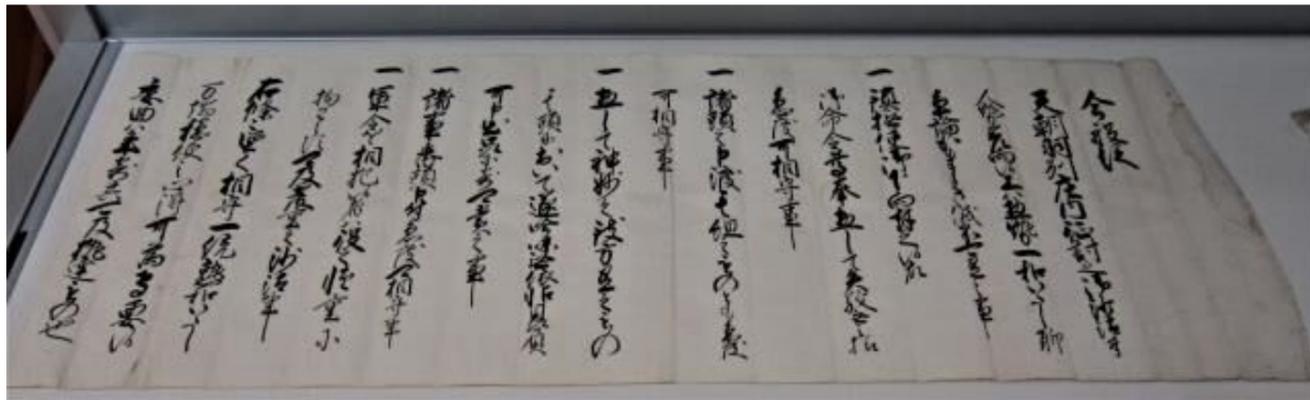


ぼしん 戊辰戦争

歴史のコトノハ

第15代将軍徳川慶喜が政権を返上し、天皇を中心とする新政府が誕生すると、慶応4（1868）年1月に新政府と旧幕府が鳥羽伏見（京都）で激突します。この戦いを皮切りに北越戦争（新潟、5～7月）、会津戦争（福島）を中心とする東北戦争（8～9月）へと拡大しました。秋田藩は新政府側について、会津藩を救うために団結した東北諸藩と対立し、仙台藩・盛岡藩・庄内藩が秋田藩領内に進撃、現在の大仙市でも角間川・刈和野・境など多くの地域が激戦地となりました。

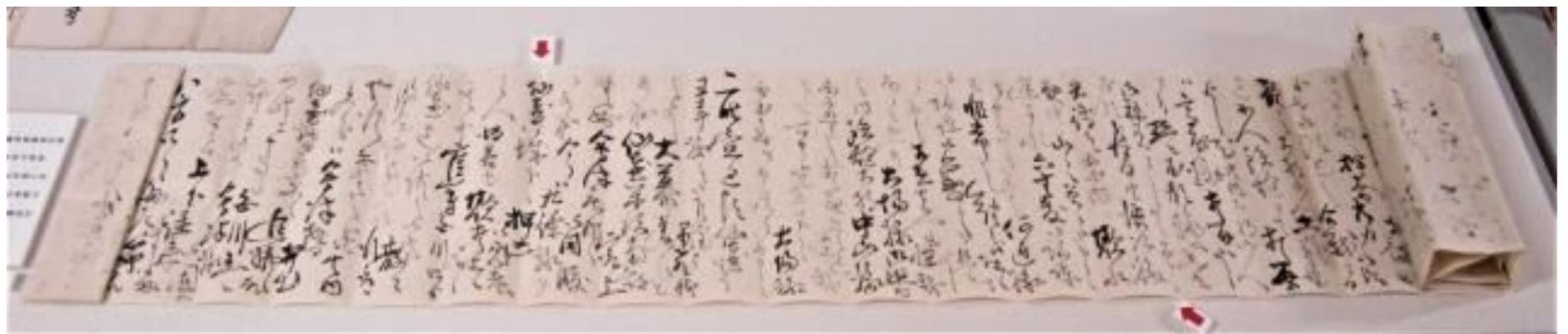
翌明治2（1869）年5月18日に五稜郭（北海道）が開城するまで、約1年半に渡って戦争が続きました。



御沙汰書（慶応4年）

朝廷（新政府軍）による庄内征討についての命令書。

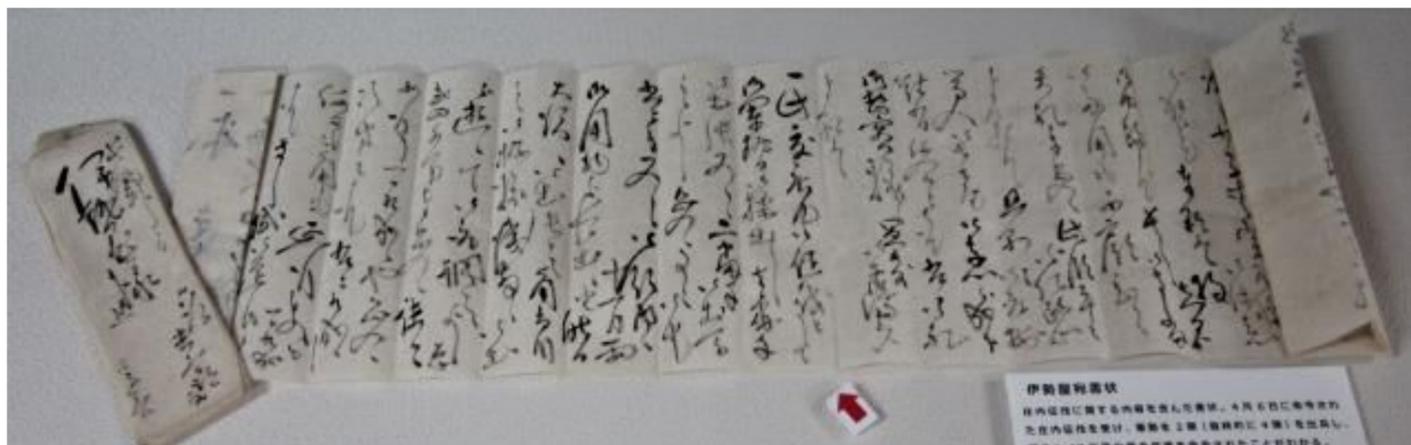
（高階家文書）



書状（慶応4年）

慶応4年閏4月段階での奥羽各地の戦況を伝えた書状。仙台城下に奥羽鎮撫総督・九条道孝が軟禁されていることや、秋田藩内での庄内征討の状況などが詳細に書かれている。

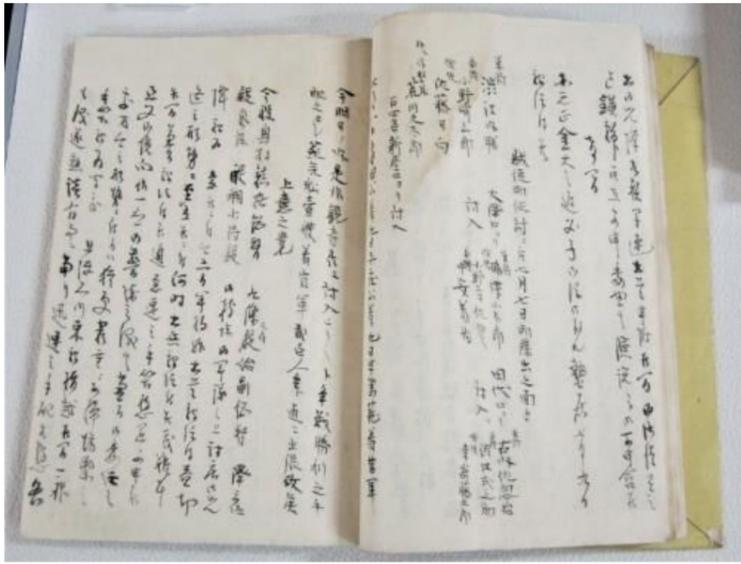
（平瀬家資料）



伊勢屋宛書状（慶応4年）

庄内征討について、新政府軍から命令を受け軍勢を出兵すること、領内へ軍資金供用の命令が出されたことなどが書かれている。

（平瀬家資料）



戊辰王命探索録 (明治5年9月写)

戊辰戦争の経緯が時系列で書かれているもの。秋田戦争についても、新屋口や生保内口における戦闘の様子が書かれている。最後の頁には大村藩の14歳の少年、浜田謹吾（資料では鎌田謙吾となっている）が刈和野の合戦で鉄砲に当たり、討死したことも書かれている。

(個人蔵)



賞状 (明治4年)

戊辰戦争の軍功受賞の賞状。秋田藩では明治2年に軍功を賞与し、明治4年になって再調査のうえ大幅削減しており、再調査後に「賞言」を与えられた。

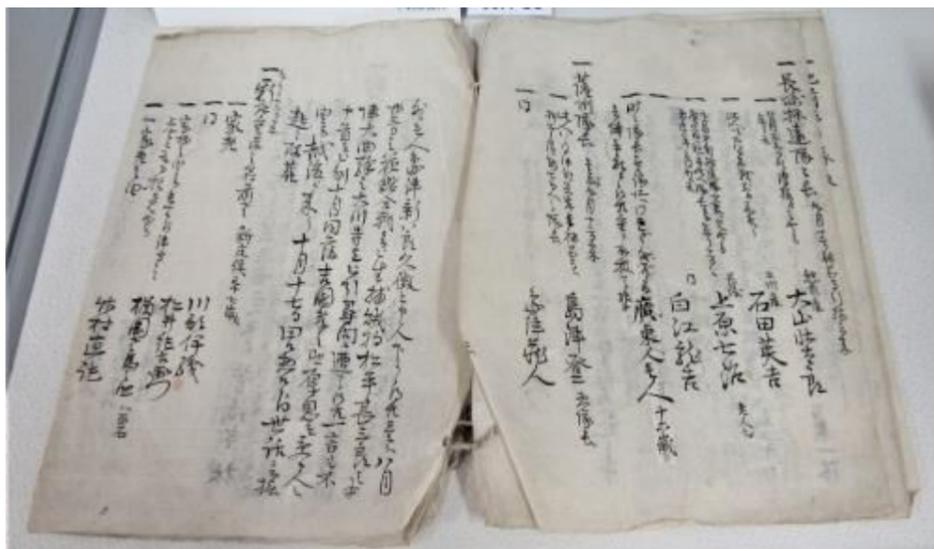
(平瀬家資料)



秋田戦争巻絵 (昭和)

戊辰戦争の絵巻。のちに峰吉川・刈和野付近の戦闘の様子を絵巻として描いたもの。

(進藤ケコ寄贈資料)



各藩角館宿陣隊長名一覧 (慶応4年)

花館合戦で捕らえられ斬首された島津新八郎についての記載がある。そのほか、長州藩士であった桂太郎やのちの秋田県令となる石田英吉（土佐藩）の名が見える。

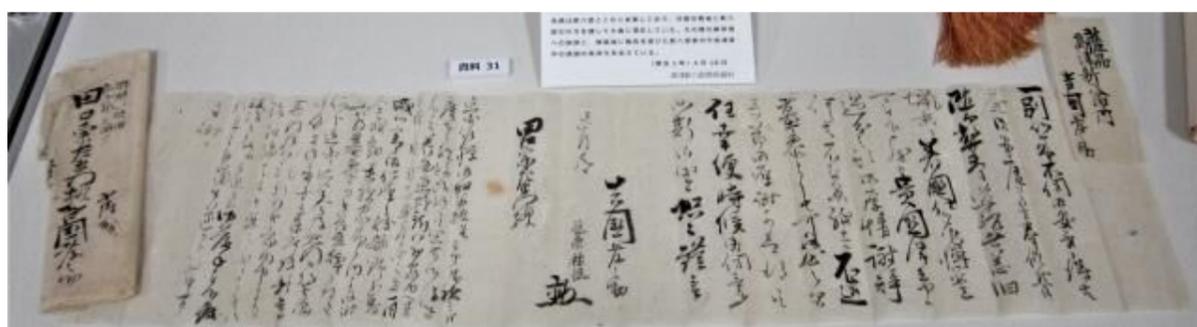
(平瀬家資料)

島津新八郎について

島津新八郎は、宮之城島津家の分家、基多村家の10代目にあたる人物です。宮之城島津家は、薩摩藩（現在の鹿児島県）の藩主島津家の分家で、数ある分家の中でも「一所持」として一門に次いで重んじられる家格でした。基多村家はその宮之城島津家の3代久元の二男家として分れた家です。

1868（慶応4）年に戊辰戦争が起こり、秋田県内は新政府軍と奥羽越列藩同盟に署名した東北諸藩との戦場となりました。秋田戦争では、秋田藩は新政府軍側として戦いましたが、劣勢を強いられます。新八郎はそこに援軍として薩摩から秋田にやって来ます。新八郎は県内各地を転戦し、最期は「花館合戦」と呼ばれる戦いで、横手城を陥落させた庄内藩（現在の山形県）や仙台藩（現在の宮城県）を相手に勇戦しました。

その結果、新八郎は戊辰戦争における島津家一族で唯一の戦死者となります。実は、どのような状況で死んだのか、よくわかっていません。夜に酒を飲んでいたところを襲われた、頭痛で休んでいた所を襲われたなど諸説あり、どれが事実か現在も議論がなされています。



書状（明治2年）

島津新八郎家臣の吉國孝之助（藤原祐恒）からの礼状。大曲に滞在していた際の田口家からの恩情に対する謝辞と、新八郎家内や島津家中からの感謝を伝えている。

（島津新八郎関係資料）



刀剣（銘：大道）

島津新八郎の埋葬に対して、行方を捜していた吉國孝之助から明治元年にお礼として贈られた刀。作製年は不明。

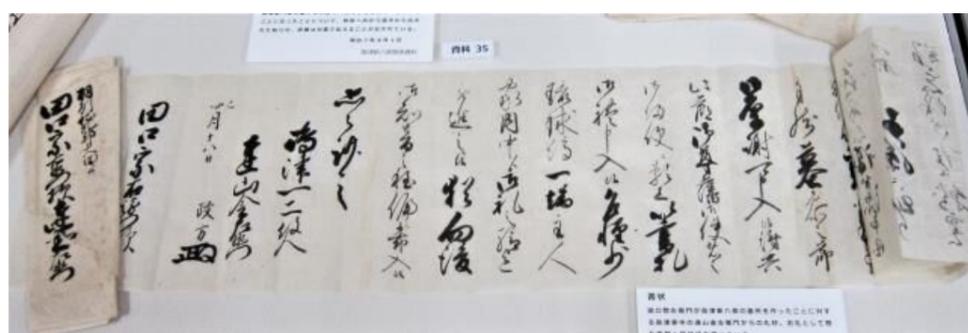
（島津新八郎関係資料）



包紙（明治2年）

島津家中の遠山金左衛門から贈られた琉球縞を包んでいたと思われる包紙。

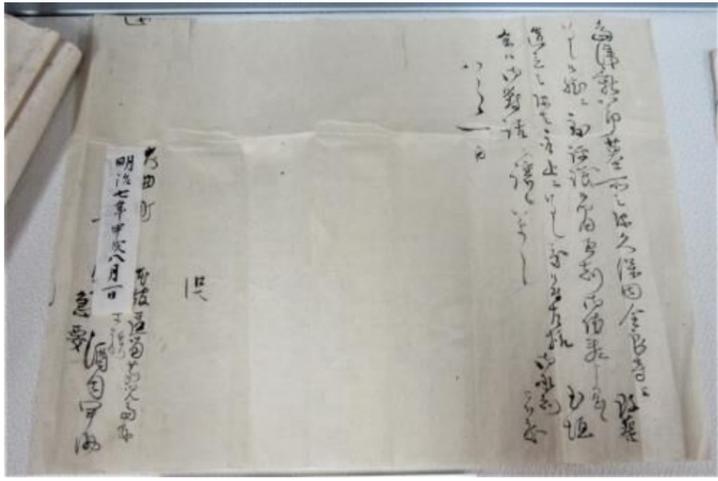
（島津新八郎関係資料）



書状（明治2年）

田口惣左衛門が島津新八郎の墓所を作ったことに対する島津家中遠山金左衛門からの礼状。

（島津新八郎関係資料）



書状 (明治7年)

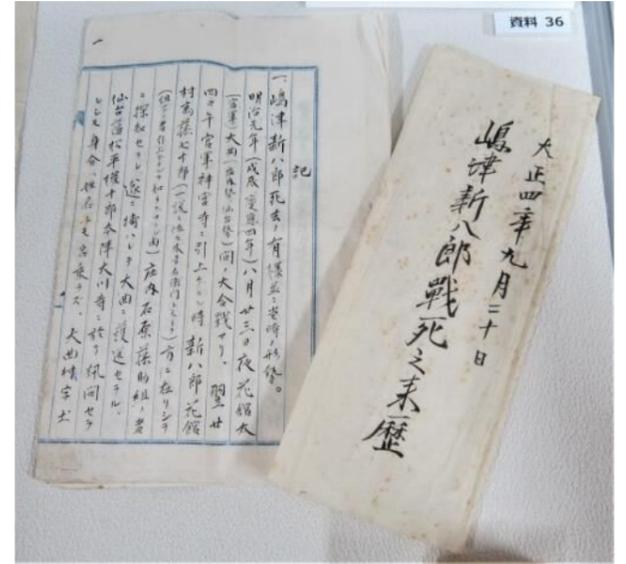
島津新八郎の墓を秋田市八橋にある全良寺へ改葬することになったことについて、秋田に向かう道中から田口家へ出された知らせ。詳細は対面で伝えることが記されている。

(島津新八郎関係資料)

島津新八郎戦死之来歴 (大正4年)

新八郎が花館合戦で捕らえられ、斬首された経緯や、新八郎の家臣や島津家中とのやりとりなどを書き写した資料。

(島津新八郎関係資料)



島津新八郎と田口惣左衛門家

田口家 (通称：田惣家) は大曲の素封家で、のちの大曲町長・田口松圃しょうぼが生まれた家です。

島津新八郎が捕らえられ、斬首された場所が田惣家の土地であった縁で、松圃の曾祖父田口惣左衛門が火葬場から自分の土地に移葬しました。新八郎の行方を捜していた新八郎の家臣・吉國孝之助が田惣家を訪れ、惣左衛門は埋葬当時の様子を伝え、吉國からは埋葬の御礼として刀剣が贈られました。その後、吉國や島津家中の酒田軍介とやり取りをした書状も残されています。

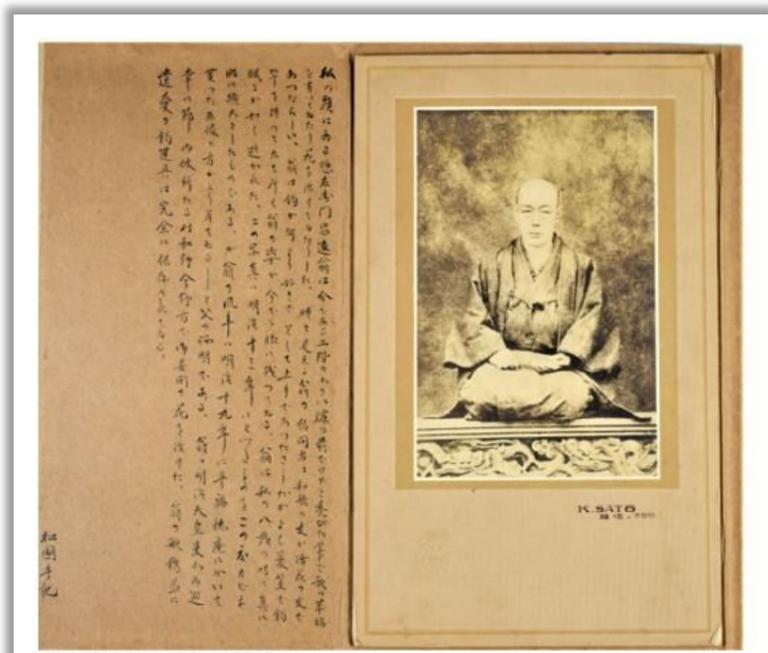
明治7年に改葬され、新八郎は現在、秋田市の全良寺に眠っています。



島津新八郎戦死記念碑 (八幡神社境内)



田口惣左衛門 (昌遠) の肖像画
ひ孫にあたる松圃 (田口謙蔵) の手記が添えられており、肖像画を描いた平福穂庵による写生の様子などが記されている。
田口松圃家資料



田口惣左衛門 (昌遠) の肖像写真
ひ孫にあたる松圃 (田口謙蔵) の手記が添えられており、釣り好きであったこと、平福穂庵の描いた肖像画の方が本人に似ていることなどが記されている。
田口松圃家資料

戊辰戦争と東北御巡幸

戊辰戦争という内戦後の明治政府は、明治10年に西南戦争が勃発するなど、まだ内政が不安定な状況にありました。こうした中、明治5年から18年にかけて行われたのが明治天皇の御巡幸です。

この時の明治天皇の御巡幸は六大巡幸と呼ばれ、明治9年と明治14年は東北地方と北海道地方への御巡幸でした。これは、戊辰戦争で新政府と対立した東北諸藩並びに函館戦争による反明治政府・反薩長の感情を抑え、明治天皇の名のもと人心をひとつにまとめ、新たに近代日本として出発するためであったと言われています。



御巡幸史 (明治14年)

明治天皇六大巡幸の一つ、明治14年の東北巡幸に関してまとめたもの。御巡幸前に、官軍戦死者の碑の場所や移転についての調査が行われた。

(角間川町役場文書)



戊辰戦争の慰霊祭

池田家所蔵